



逆境での学びを糧に社会へ 令和3年度卒業式・ 学位記授与式

卒業式・学位記授与式が3月22日(火)に日本武道館で、コロナへの対応策を講じ、午前と午後の2部制で開催された。学部(一部・二部)卒業生は4,028名、大学院修了生は82名、法科大学院修了生は10名。各学部総代に佐々木重人学長から学位記が手渡され、学術・体育などで優れた成績を取めた45名の学生に川島記念賞が授与された。また今年度は、育友会から記念品として多機能ペンが卒業生に贈られた。



↑午前の部で総代謝辞を述べた難波さん
←午後の部で総代謝辞を述べた島野さん

午前の部の総代謝辞で難波健太さん(経済)は「オンラインでの学習は不安が募ったが、心が折れそうなときも、夢や目標に向かって頑張り続ける仲間のおかげがあった。入学時には想像しえなかった環境に対応し、乗り越えた経験は、自らを信じ、決して諦めない強い心を与えてくれた」と、午後の部の総代謝辞で島野蘭さん(文)は「コロナのせいではできなかったと後悔しないように、大学生活を実りあるものになろうと、努力し、工夫をこらして乗り切った。対面授業が再開された際は、友達や先生に直接キャンパスで会えるありがたみを再確認した」と述べた。コロナ禍の大学生活を送った卒業生は、逆境での学びを糧に社会に踏み出した。